

**令和 7 年度第 1 回四国中央市部活動地域移行検討委員会
会議録**

1. 会議名	令和 7 年度第 1 回四国中央市部活動地域移行検討委員会
2. 日 時	令和 7 年 11 月 27 日（木）19:00～20:15
3. 場 所	伊予三島運動公園体育館 大会議室
4. 出席者	委 員：13 名 藤田恭二、近藤泰久、井川方典、本田穰司、高橋信行、森實繁仁、 石川幸雄、近藤和明、渡邊真介、加地孝昌、渡部振一郎、 宇高義和、脇展子 教育委員会：3 名 教育長 河村 英茂 教育管理部長 石川 元英 教育指導部長 高橋 哲也 事 務 局：5 名（文化・スポーツ振興課 3 名、学校教育課 2 名） 文化・スポーツ振興課長 山田 仁美 以下 2 名 学校教育課長 石川 典英 以下 1 名
5. 傍聴者	一般 0 名 報道関係者 0 名
6. 会議の公開	公開
【会議内容】	
1. 開会	
2. 開会のあいさつ	四国中央市教育委員会教育長 河村 英茂
3. 委員長・副委員長選出	委員の互選により、昨年度に引続き 委員長 藤田 恭二 委員 副委員長 渡部 振一郎 委員 が就任
4. 報告	(1) 「地域スポーツ・文化芸術創造と部活動改革に関する実行会議」 最終とりまとめについて 事務局より概要説明 (2) 部活動の地域展開・地域クラブ活動の推進等に関する調査研究協力者会議について 事務局より概要説明

(3) 休日の部活動地域移行に係る現状把握調査の結果について
事務局より概要説明

(委員長)

報告(1)～(3)について質問、意見はあるか。
→質疑等なし

5. 議事

(1) 今後の四国中央市の動きについて
事務局より概要説明

(委員長)

事務局からの説明について、質疑等はあるか。

(委員)

令和10年度から休日の地域展開を目指す、ということでよいか。

(事務局)

昨年度の検討委員会で、部活動の顧問の先生にアンケートを取らせていただいて、今回結果を発表したところだが、市内においても現状の部活動を維持していきたい先生もあり、すでに地域展開に近い形になっているところもある。チームによっては、先生が顧問ではなく、地域指導者として携わっている現状もある。ただ、計画を策定しないと地域展開をしたい部活動への対応ができなくなってしまう。骨格を決めたとしても、様々な部活動・地域展開のパターンがあるので、1つの方法で課題解決を行っていくことは難しい面もある。しかしながら、地域展開ができるような計画を策定したいと考えている。また、個別ケースがあるので、全体で一斉に地域展開を開始することも難しいと考えられるため、予算や人材確保を行いつつ、令和10年度からスタートできるようにしたいと考えているのが現在の案である。

(委員)

令和7年度も終盤に近づいているが、2点疑問がある。まず1つ目は本市の地域展開を決めていくのはどこになるか。検討委員会がどの立ち位置になるか。2つ目は、検討委員会の開催頻度について、今後回数を増やしていかないと厳しいのではないか。県内自治体でも休日の地域展開だけでなく、平日も進んでいるところもあるので、少し遅れを取っているように感じている。

(事務局)

現時点で計画素案もない状況であるので、まずはたたき台となるものを作成する。そのなかには、地域クラブの認証制度や月謝の問題も出てくると思うが、本市としての大枠は決めていきたい。ただ、ご意見のとおり、議論が重なればお示ししているスケジュールで対応できないこと場合や時期が早まる可能性も十分に考えられる。現状の国や県の動きに合わせた形にはな

っているが、本市として子ども達のためにより良い計画を策定したい。また、議論が深まってくれば、検討委員会の実施回数が増えてくることも考えられるので、皆さまのご協力をお願いしたい。

(委員長)

国や県の動きと合わせた現時点でのスケジュール（案）ということでよいか。

(事務局)

はい。

(委員長)

そのような説明でよろしいか。

(委員)

子ども達のためにも慎重に進めていくことが大事であると思う。外部が一時的に顧問の先生の代わりに指導者になればいい、というわけではなく、持続可能な運営をしていくためには、各クラブを取りまとめる団体が必要だと思う。

(委員長)

どのような方法で地域展開を行っていくかは、今後の検討委員会で協議していければと思う。国から「部活動改革及び地域クラブ活動の推進等に関する総合的なガイドライン」のパブリックコメントの募集が先日まで行われており、12月ごろに公表される見込みとなっている。公表された内容を参考にしながら、進めていく必要がある。

(事務局)

ガイドラインの内容を踏まえ、委員の皆さんの意見も参考にさせていただきたい。持続可能な運営、という点についても、国の認定制度を参考に進めていきたい。

(委員長)

他に意見はあるか。

(委員)

現場の状況について報告したい。少子化が進む中で、子どもたちが継続して文化やスポーツに触れ合っていけるような環境を作ることが1番だと思うが、現状として、成り立っていない部活動が多い。軟式野球では、市内で地域クラブ1チームのみになり、結果として地域への移行が行われた。ラグビーも市内でチームを組むことができないため、地域クラブ化して他市との合同チームで大会に出場している。水泳は民間のスイミングスクールに通っている。柔道も他市では柔道会として出ているケースも見受けられる。また、試合に出ることを目的とするのではなく、普段活動できない子たちに技術向上を目的として練習の場を設けている地域クラブや社会人クラブのジュニアチームとして活動しているクラブもある。陸上は地域に数クラブあ

り、バドミントンは外部指導者、サッカーも地域にクラブがあって、生徒たちの受け皿となっている。ただ、ソフトテニスや卓球は現状生徒数が多く、部活動が成立している。そのため、学校外に出なくても教員主導で活動することができているのではないかとにかくチームスポーツが成り立ってない。単独で活動ができないため、スポーツに触れ合うチャンスが失われている。そこをどのように考えていくか。子どもたちのために、という理念がないと持続可能なものにはならない。ただ、過渡期の子どもたちのことを考えると、時間的な制約もある。

(委員長)

市内でも独自で動いている団体もある。国や県の施策と合わせるべき内容も出てくるのではないだろうか。事務局から意見に対して何かあるか？

(事務局)

学校部活動の現状について、貴重な情報提供ありがとうございます。今後、計画の骨子を作成していくにあたって、子どもたちが迷わないように、先生方のご意見もいただきながら進めていきたいと考えている。引続きご協力をお願いしたい。

(委員長)

他にそれぞれの立場で意見を述べたい委員もいると思うが、ここで一旦議決を行う。事務局から提示されたスケジュールについて、これを大きな柱として、今後適宜見直しをしながら、進めていくこととしてよろしいか。

(委員)

異議なし。

→今後のスケジュール（案）について承認

6. 意見交換

(委員長)

引続き、意見がある方は挙手をお願いしたい。

(委員)

指導者の養成や指導者バンクの設立等も検討していくのか？

(事務局)

県では指導者バンクの設立を検討しているようだが、市でも独自に設立するか、今後の検討課題としたい。

(委員)

新しい国のガイドラインで出てきて、やるべきことが見えてきた。学校部活動が担っていた意義を継承しようという意図が見える。地域展開によって勝利至上主義、成果主義の地域クラ

ブが目立つように思えた。部活動とそもそもの目的が違う。また、これまで先生方が責任を持って行っていた部活動の指導に、外部の方が関わるようになると、様々なハラスメントが起きる可能性も考えられる。今後対策を検討していかないといけないと思う。また、先ほど説明のあったように、市内の部活動の状況も変化しているなかで、少子化のことも見据えた動きも必要になってくるのではないかな。

(委員)

小学校の方では、水泳大会が成り立たなくなっている。他市町では学校でプールの授業ができないため、大会を中止にする動きも出てきている。このままでは、アンケートやガイドラインにもあるように、経済的な問題や住んでいる環境によって今後やりたい活動があるのにできない、という子どもたちが多く出てくる心配がある。データとして、令和12年度には本市の小学校に入学する子どもが400人を切ると言われている。市内で大きい小学校でも人数が大幅に減ってきており、色んなことが成り立たなくなっていることを心配している。また、運動部と文化部、それぞれの競技でも地域展開にあたっては課題が大きく違うと思う。種目ごとの課題検討について今後必要になると考える。

(委員)

かつて部活動に熱心に取り組んでいた教員たちが退職し、若い先生などが専門ではない種目を担当しながら、何とか活動できている状況。業務が多くなっており、放課後や休日に部活動への時間を割ける教員も多くない。先ほどスケジュールの提示があったが、これが遅れれば遅れるほど状況はひどくなると思う。生徒数の減少が言われていたが、四国中央市は横に土地が広いので、仮に三島地域にクラブチームができたとしても、川之江地域や土居地域の子たちがどのように通うのかというのも課題になる。かといって、各地域に作っても、結局人数が足りなくなることが想定される。保護者の協力や公共交通機関で移動、というのも限界があると思うので、移動手段の支援策の検討も含めて進めていく必要があると考える。

(委員)

我々が検討や方針を決定している間にも状況は刻々と変化している。様々な情報が溢れているなかで、安易な考え方で地域展開を進めていこうという動きもあるのではないかなと思う。現時点で、気になる動きはあるか？これまで、理念や必要性を持って地域展開を行ってきたクラブもある一方で、自分勝手な動きを行うクラブも出てくると思う。計画をスケジュール通り行っていくことは賛成だが、想定される問題など早急に検討しておくべき事案があれば、共有していただきたい。

(委員長)

事務局から何かあるか？

(事務局)

ご意見のとおり、様々な問題が起きる可能性がある。もし何か情報があれば、委員各位から電話やメール等で忌憚のないご意見をいただきたい。各種課題に対する対処法も適宜検討して

いきたい。

(委員長)

事務局が知らないことも多くあると思うので、現場等で気になる情報があれば適宜連絡していただきたい。

(委員)

3つほど意見を述べさせていただく。1つ目は本市の動きがどのようになっている、市民にどう伝えていくかが課題。色んな情報があるなかで、何が正しいのか分かっていない人もいる。2つ目はヒアリング調査をどこまで行うか。部活動や競技団体等だけでなく、地域の様々な団体にも話を聞いてみて、色んな可能性を探ってみてほしい。3つ目は、今後の検討委員会の見通しについて、検討すべき事案も多くなるので、会議の開催ペースを上げていかないといけないのでは、と考える。

(事務局)

今後のスケジュールとして、どの程度の計画案をご提示するか、大前提の大きな目的はもちろんだが、月謝等の細かい内容まで詰めてお示しするか、大枠だけ決めて検討委員会で協議していくかは、教育委員会内で検討していきたい。今日、様々なご意見をいただいたので、計画の参考にさせていただき、素案を作成したのちに、検討委員会にてお示ししたい。

(委員)

地域展開の大きな目的が、子どもたちの将来にわたる活動機会の確保、ということで、これまで中学校の放課後で行われていたものが、違う場所で行われるようになり、専門性も高くなるため、スポーツに触れにくくなることが予想される。小学生段階からスポーツ好きの子どもたちを増やしていくことが必要。地域でこんなスポーツができるという情報があれば、子どもたちも取組んでみたいと思えるのではないかな。

(委員)

参考情報になるが、例えばスポーツ協会では、小学生を対象とした「スポーツアドベンチャー」というイベントを開催している。そこでは、多くの市内競技団体などに協力いただきながら、様々な種目を体験できることから大変人気があり、例年数百人以上の子どもたちが参加している。

(委員)

昨年度隣接する中学校から、小学5年生までを対象にした部活動に関するアンケートの依頼があった。これから中学校に入学する、過渡期の子どもたちの意見を参考にすることも大事ではないかと考える。

(委員)

競技志向の強いクラブだけでなく、楽しむスポーツやニュースポーツができるような環境を今後作っていくことも大事になると思う。

(委員長)

ガイドラインを読むと、総合型地域スポーツクラブに近い考え方の記述もあるので、今後そういう視点も持っておくことが必要になるだろう。

(委員)

特に運動部において、中体連の主催大会である総体や新人戦を目標に活動している子たちが多いのだが、種目によっては地域クラブでの参加制限がある。そのことを知らずに、地域クラブに所属して総体、新人戦に出られず、クラブを立ち上げた指導者もルールをよく分からないまま運営しているということもあり得る。登録ルールの周知も含めて検討いただきたい。

(事務局)

市が認めた地域クラブや地域展開に準じたクラブでないと出場できない、といった規則がある種目、ない種目様々なので、難しい面もあると思うが、情報共有を行いながら進めていければと思う。

(委員)

我々が中学生のときは、中学校に入学して様々な部活動から選択するというものだったが、今の地域展開の状況は勉強のために学習塾に行く、という考え方に近い。とはいえ、活動の一部が地域クラブに移ったとしても、部活動が続いている状況である以上、意義を忘れることなく、所属する生徒も部の方針には従うべきであると考ええる。

(委員長)

今回でスケジュール等の大きな指針も見えた。引続き議論を重ねながら本市の計画策定を進めていく必要があると思うので、ご協力をお願いしたい。

7. 事務連絡

8. 閉会